

台湾国立高雄餐旅大学応用日本語学科における日本語教育

——国家政策による観光産業の人材育成——

伊 藤 恵 美 子

目 次

1. はじめに
2. 台湾国立高雄餐旅大学の沿革と特徴
3. 調査
 - 3-1. 調査方法
 - 3-2. 調査結果
 - 3-2-1. 教育目標
 - 3-2-2. 開講科目
 - 3-2-3. 考察
4. おわりに

1. はじめに

日本語学習において上級レベルまで達する学習者は東アジア出身者が圧倒的に多い、海外で第二言語として日本語を学ぶ学習者はせいぜい中級レベルで上級レベルに至るケースは稀である、との言は日本語教育関係者において周知の事実である。伊藤(2008)では、前者の例外と思われる非漢字圏のタイにおいて、中・上級レベルの学習者養成に成功しているタイ商工会議所大学の教育プログラムについて調査・分析を行った。本稿は、後者の認識を新たにするような教育実践を行っている台湾国立高雄餐旅大学の教育プログラムについて述べたい。

2. 台湾国立高雄餐旅大学の沿革と特徴

今世紀に入り、日本の大学をめぐる情勢は厳しい。国立大学は法人化され、大学は全入時代になり、大学への進学率は50%を超える一方で、日本経済の低迷から大学生の就職内定率は低下している。この時代の動向を受けて、大学は伝統的な教養・高等教育を授ける場から、職場に必要な即戦力を養成する場へと、企業・産業界から変貌を迫られている。

台湾国立高雄餐旅大学は、日本の大半の大学が現在置かれている状況の一步前を進み、実績を上げて

いる大学である。同大学の前身は1995年に設立された国立高雄餐旅管理専科学校で、日台間の観光客増加に対応するため、国家予算の措置により設立された(黄・紙矢)。台湾当局の政策として、外貨を獲得する観光産業に従事する人材を育成するため、2年制の技能養成機関が創られたのである。2000年8月に同校は国立高雄餐旅学院と名を改めて4年制になり、2010年8月1日に大学に昇格したばかりである(国立高雄餐旅大学「本学発展簡史」)。設置からわずか15年で国立大学に昇格、大学院も併設するまで拡大・成長したのは、政治力は無論であるが¹⁾、同大学の教育が産業界において評価された結果と言えよう。

台湾国立高雄餐旅大学の最大の特徴は就職に結びつく実践力の養成を教育目標に掲げ、ホテルマン・ツアーガイド・調理師など各職種に必要な技能・技術の訓練を現場に即して行うためインターンシップが義務付けられていることである(黄学科長の談話)。同大学は4年制の大学で、一部の専攻では大学院教育も開始し、昼間部のほか働く人々のために夜間部も開設されている。学部は、ホテルサービス学部(餐旅学院)²⁾、観光学部(観光学院)、調理学部(厨芸学院)の3学部である(国立高雄餐旅大学「教学単位」)。ホテルサービス学部はホテル学科、レストラン学科、マーケティング学科、応用英語学科、応用日本語学科の5学科に、観光学部は旅行学科、航空・運輸学科、リゾート学科の3学科に、調理学部は中華料理学科、西洋料理学科、製パン学科の3学科に分かれている。学生数は昼間部は約3,000名、夜間部を加えると約4,200名である。

3. 調査

3-1. 調査方法

調査は2011年1月中旬に筆者が台湾国立高雄餐

旅大学を訪れ、応用日本語学科の日本語科目担当者に対して直接実施した。先ず学科長の黄招憲先生に同学科の特徴と教育目標について、次いで黄女玲先生、施文華先生、若生久美子先生、尾崎富枝先生の順に空き時間に担当科目について、聞き取り調査を半構造的に行った³⁾。

3-2. 調査結果

3-2-1. 教育目標

台湾国立高雄餐旅大学が設立された経緯から、同大学の教育目標は一言で言えば、職業に直結する技能の修得である（黄学科長の談話）。そのため、応用日本語学科では伝統校で重んじられている教養科目や文学部で行われている芸術作品鑑賞の時間が非常に少ない。一例を挙げれば、2単位の「日本文学鑑賞」が4年次の学科指定選択科目としてわずか一科目開講されているだけである（表4を参照されたい）。

その一方で、表1から分かるように、大学指定必修科目として「ホテル会話1・2」、学部コア科目として「観光学」「ホスピタリティ概論」等、ホテルを中心とするサービス産業に従事する場合に身に付けておくべき教授項目は1年次から導入されている。

3-2-2. 開講科目

台湾国立高雄餐旅大学応用日本語学科では教育目標を達成するために教育プログラムがいかにデザインされているかを、1年生から4年生に向けて開講されている科目から検討していこう。以下に、1年次から4年次の開講科目を一覧表に掲げる。

3-2-3. 考察

台湾国立高雄餐旅大学応用日本語学科の最大の特徴は、2. 台湾国立高雄餐旅大学の沿革と特徴、および3-2-1. 教育目標で述べたように、全員の学生が3年次に1年間のインターンシップが義務付けられていることである（表3を参照されたい）。インターンシップの受入れ先は台湾内とともに台湾外にもあり、台湾外は日本の大学への短期留学と日本国内の日本企業での職業経験に分けられる。同大学は国立ということもあり、必ずしも裕福な家庭の子女ばかりが進学しているとは言えない（施先生の談

話）。したがって、日本語力が高く経済的に恵まれている学生に対しては交換留学生として日本の土を踏む機会が、日本語力が高く自分の力で将来を切り開いていこうとする意欲的な学生に対しては日本のホテルで日本語の運用力に磨きをかけながら実務経験を積む選択肢が、渡日に躊躇する学生に対しては台湾内の企業が用意されている。つまり、複数のインターンシップコースから、学生は希望や能力や家庭事情などに最適の受入れ先を選択することができるわけである。日本国内におけるインターンシップの受入れ先は、城西国際大学・京都学園大学・九州国際大学・徳山大学、および大阪新阪急ホテル・ホテル阪急インターナショナル・ホテル阪急エキスポパーク・第一ホテル東京・千里阪急ホテル・宝塚ホテル・沖縄残波岬ロイヤルホテルである（国立高雄餐旅大学「実習単位」、および施先生の談話）。

表1の開講科目を見て先ず気づくことは、1科目選択として「中国語言語能力訓練」「中国文学鑑賞」「中国語作文」が挙げられていることである。外国人留学生ではなく台湾人学生に対して、どうしてこのような科目が開講されているのか不可解である。日本の大学でフレッシュマンに対して、日本語表現などの科目名でレポートの書き方を教える授業が近年増えているが、これと同じように考えてよいだろうか。

台湾の言語政策を紐解くと、台湾の政治情勢、つまり国民党の勢力とスタンスにより、日本敗戦の1945年以降を3つの時代に分けることができる（藤井，2003：149-170）。第一期は1945年から1949年までの「国語」の脱日本化から中国化の時代で、「国語」は日本語から北京語へ改められた。第二期は1950年から1986年までの「国語」の絶対化の時代で、国民党政府は北京語同化政策で台湾を中国化・中華民国化して国家の団結を目指した。第三期は1987年の戒厳令解除後から現代までの多元化の時代で、民主化・台湾（土着）化により「国語」は台湾の共通語とされ、各民族の言語も尊重されるようになった。台湾で話されている「国語」は北京語を基調としているが、南方系方言の発音、および閩南語や日本語から取り込まれた語彙などから台湾化された変種と看做されている（中川，2009：63）。民主化された現在では台湾を統一する言語が必要であり、共通語として「台北標準国語」を制定するこ

表1 1年生の開講科目

科 目 名 称	前期単位・時数	後期単位・時数
【大学指定必修科目】		
英語（リーダー・ライティング）1・2	2・2	2・2
英語（ヒヤリング・スピーチ）1・2	2・2	2・2
ホテル会話1・2	2・2	2・2
（1科目選択）中国語言語能力訓練	2・2	2・2
or 中国文学鑑賞		
or 中国語作文		
（1科目選択）社会科学概論	2・2	2・2
or 法学緒論		
or 心理学		
or マスコミ学		
コンピュータ概論1・2	1・2	1・2
基礎統計学	2・2	
軍事訓練 ⁴⁾ 1・2	0・2	0・2
体育 ⁵⁾ 1・2	0・2	0・2
小 計	13・18	11・16
【学部コア科目】		
観光学	2・2	
ホスピタリティ概論		2・2
ホスピタリティゼミ1		1・2
小 計	2・2	3・4
【学科指定必修科目】		
日本語1・2	2・2	2・2
日本語作文I 1・2	2・2	2・2
レストラン日本語会話1	2・2	
日本語言語練習1・2	1・2	1・2
小 計	7・8	5・6
【学科指定選択科目】		
華語（中国語）教育実務1	2・2	
メイクアップ&マナー	2・2	
3級日本語能力試験対策	2・2	
2級日本語能力試験対策2	2・2	
華語（中国語）教育実務2		2・2
2級日本語能力試験対策1		2・2
レストラン日本語会話2		2・2

出所：「国立高雄餐旅大学応用日本語学科四年生カリキュラム表（2010年）」より筆者作成

表2 2年生の開講科目

科 目 名 称	前期単位・時数	後期単位・時数
【大学指定必修科目】		
英語（ヒヤリング・スピーチ）3	2・2	
人文：国際マナー	2・2	
社会：人間関係とコミュニケーション		2・2
美学概論	2・2	
世界の音楽		2・2
体育3・4	0・2	0・2
小 計	6・8	4・6
【学部コア科目】		
ホスピタリティゼミ2	1・2	
サービスマネージメント		2・2
小 計	1・2	2・2
【学科指定必修科目】		
日本語3・4	2・2	2・2
日本語作文Ⅱ1・2	2・2	2・2
ホテル日本語会話1・2	2・2	2・2
日本語文法1・2	2・2	2・2
レストランサービス実務		2・4
レストラン英語会話1	2・2	
ホテルサービス実務	1・2	
校内実習1		1・1
小 計	11・12	11・13
【学科指定選択科目】		
日本地理	2・2	
1級日本語能力試験対策1	2・2	
航空旅客運送とチケット業務	2・2	
ツーリズム経営と管理	2・2	
日本の歴史		2・2
1級日本語能力試験対策2		2・2
添乗員・ガイド実務		2・2
レストラン英語会話2		2・2

出所：「国立高雄餐旅大学応用日本語学科四年生カリキュラム表（2010年）」より筆者作成

表3 3年生の開講科目

科目名称	前期単位・時数	後期単位・時数
【大学指定必修科目】		
インターンシップ1・2	10 単位	10 単位
小 計	10 単位	10 単位

出所：「国立高雄餐旅大学応用日本語学科四年生カリキュラム表（2010年）」より筆者作成

表4 4年生の開講科目

科目名称	前期単位・時数	後期単位・時数
【大学指定必修科目】		
歴史と文化		2・2
小 計		2・2
【学部コア科目】		
経営学	2・2	
世界旅行と食文化	2・2	
小 計	4・4	
【学科指定必修科目】		
日本語5・6	2・2	2・2
日本語応用文	2・2	
日本語翻訳	2・2	
校内実習2	1・1	
ゼミ製作	1・2	
日本語論文執筆方法		2・2
日本語通訳		2・2
海外研修		1・1
小 計	8・9	7・7
【学科指定選択科目】		
日本語スピーチとディベートⅠ	2・2	
職場の日本語	2・2	
日本文学鑑賞	2・2	
ホテルマネージメント	2・2	
添乗員・ガイド日本語会話	2・2	
観光行政と法規	2・2	
ホスピタリティ実践とライセンス	2・2	
日本文化		2・2
ニュース・メディア日本語		2・2
エビエーション日本語会話		2・2
日本語スピーチとディベートⅡ		2・2
レストランマネージメント		2・2

出所：「国立高雄餐旅大学応用日本語学科四年生カリキュラム表（2010年）」より筆者作成

とが現実的であるとの見方がある（中川，2009：146）。「中国語言語能力訓練」等が大学指定必修科目に配当されているのは、若者の国語力低下への対策という日本的な捉え方より、多民族社会台湾のダイグロシヤ（diglossia）を映し出している鏡であり、文教政策の一環と考えるほうが妥当であろう。

さらに、表1で顕著なことは、1年次から日本語能力試験対策の授業が開講されていることである⁶⁾。日本国内の大学で第二外国語を開講する場合、1年次では初級の授業、学年が上がるにつれて初中級から中級程度の授業を配当するのが通常である。同様に、海外の大学の日本語学科の場合、1年次はいわゆるゼロ初級の授業⁷⁾、2年次から3年次にかけて初中級に持っていき、脱落せず4年生に進級して学習を続けた学生が中級レベルに達する⁸⁾。ところが、台湾国立高雄餐旅大学応用日本語学科では1年前期に日本語能力試験2級・3級合格に向けての対策授業がすでに行われている。このようなことを可能にする背景として、台湾には普通科高校以外の高校で日本語を専攻とする学校がいくつかあり⁹⁾、同学科に入学する学生の大半は高校で日本語をすでに3年間勉強していることが挙げられる（尾崎先生・若生先生の談話）。なお、前期に「2級日本語能力試験対策2」、後期に「2級日本語能力試験対策1」が配当されているのは、学年暦で前期授業期間は9月から翌年1月まで、後期授業期間は2月から6月までであり、例年12月上旬に実施される日本語能力試験の日程に合わせて授業が組み立てられているからである（施先生の談話）。

2003年より台湾国立高雄餐旅大学は統一入学試験に参加し、応用日本語学科では日本語の入学試験が行われなくなったので、ゼロレベルの学生が入学するようになった（黄招憲）。同学科ではゼロ初級の授業が開講されていないので、入学時点で日本語力が不足している学生に対しては1年間休学して自習することを勧めている（黄学科長の談話）。つまり、教室で実際に授業が受けられるのは初中級レベル以上の学生に限られるので¹⁰⁾、1年次から日本語能力試験対策の授業が行えるというわけである。さらに、大学入学前、高校在学中に提携先の日本の高校へ留学したことがある学生も数名おり、同学科の1年生の日本語力が一般的な大学の水準を上回っていることは確かである。

表3の3年生の開講科目は「インターンシップ」のみで前述したので、次に表1・2を概観すると、「レストラン日本語会話1」「レストラン日本語会話2」「ホテル日本語会話1・2」という日本国内の教育では耳慣れない科目が学科指定必修科目・学科指定選択科目に挙げられていることが分かる。「レストラン日本語1」「レストラン日本語会話2」はレストランサービス（ホール）の会話、「ホテル日本語会話1・2」はレセプション・フロントサービス・ハウスキーピングで使われる会話が対象である（国立高雄餐旅大学「教師同仁系統」）。つまり、レストラン・ホテルで接客する際に使用する日本語を会話形式で提示する場面シラバスの教育である。この科目配当は、「学科設立の主旨から言えば、当然のことながら、日本語教育の段階の中で学生のレベルアップの速度にあわせる形式で無理のないように『応用される対象である諸科学』の日本語による専門語彙の増加を促し」（黄招憲）と表明された教育思想の具現化である。同学科はホテルサービス学部の一学科なので、一人前のホテルマン養成が使命であり、そのために典型的な接客場面で想定される会話を教えようという発想なのだろう。ただし、待遇表現については、家族・同僚・上司を相手とする3場面を同時に提示して、スピーチレベルシフトが起こる状況を理解・練習させる授業が一部で行われている¹¹⁾（黄女玲）。

表4から、4年次では「ホテルマネジメント」「添乗員・ガイド日本語会話」「エビエーション日本語会話」など専門職の養成科目が多く開講されていることが分かる。また、卒業論文は卒業要件として挙げられていない。卒業論文を書かないで卒業する学生のために「日本語論文執筆方法」が2単位の学科指定必修科目として開講されているが、レポートのお作法を習う程度であり、日本語専攻の学科としてはやや足りないという声もある（黄女玲先生の談話）。

「日本語論文執筆方法」はどのような内容なのか、学生はどのようなテーマでレポートを書こうとしているのかを知るために¹²⁾、筆者は休み時間に教室で4年生一人ひとりに話しかけてレポートに目を通した。テーマは日本の建築様式・若者言葉・恋愛事情等々様々だった。日本・日本語に興味を持つ学生が、これまでの与えられた勉強ではなく、主体的に

学ぼうとしている姿勢が感じられた。

4. おわりに

基礎教養科目は高校教育から大学教育への橋渡しの役割を果たし、大学で学ぶ専門教育の礎を創り、また社会人としての教養を育むため、高等教育において重要な位置を占めるとされるが、表1・2・3・4を見る限り教養科目は大学指定必修科目に数科目配当されているだけである。この基礎教養科目の位置づけから、教養より実務を重視する台湾国立高雄餐旅大学の教育方針が看取できた。

限られた教育時間で産業界から評価される実践力を養成するために、日本語力に関して言えば日本語能力試験1級合格にまで向上させるために、同大学応用日本語学科は日本語力が初中級以上の学生のみを事実上受け入れ、1年次から日本語関係の科目とともに職種に必要な専門教育を行い、さらに3年次に1年間のインターンシップで職業経験を積ませていることが分かった。この教育プログラムが実現できる背景として、高校で日本語を専攻し、日本語がすでに中級レベルに達している学生が入学生の大半を占めている特殊事情を指摘しておく。

今後の課題として、1年間のインターンシップで日本滞在了学生たちの日本語力がどう変化したかを追跡調査したい。特に場面シラバスの教科書で扱われていない状況に遭遇した場合、教科書の学習がどの程度役立ったか、学生はどのようにして初めての困難な状況を切り抜けたか、スピーチレベルシフトは自然に行えるようになったかの観点から分析を行いたい。

付記

本稿の調査に協力してくださった台湾国立高雄餐旅大学応用日本語学科の黄招憲学科長、尾崎富枝先生、黄女玲先生、施文華先生、若生久美子先生、および学生の皆様に心よりお礼を申し上げます。

注

1) 2年次の学生には「校内実習1」が学部指定必修科目として制定されている(表2を参照されたい)。その実習施設としてキャンパス内に実習旅館「群賢会館」があり、筆者は調査期間中この付属ホテルに宿泊した。部屋の机には大学を訪れた第12代馬英

久総統が大学の役職者とともに納まった写真が飾られており、国政トップに繋がる人脈を持つ幹部教職員の政治力が窺える。

- 2) 学部名・学科名は筆者が和訳したものであり、括弧内の表記はホームページにアップされている繁体字に該当する日本の漢字である。
- 3) 応用日本語学科には台湾人の先生4名と日本人の先生2名が所属している。スケジュールの関係で今回調査できなかった1名の台湾人の先生の専門は日本文学で、コースデザインなどに関与する日本語教育の中心的存在ではないので(施先生の談話)、調査への影響はないと断言できないものの、さほど大きいものではないと考える。
- 4) 軍人による授業が行われるが、単位は認定されない(施先生の談話)。1949年に発令された戒厳令は1987年に解除されたが(相川, 2010: 73)、キャンパスは軍人が闊歩しており、日本の政治状況と様相を異にする台湾の一面を垣間見た思いがした。
- 5) 体育も授業として行われるが、単位認定の対象ではない(施先生の談話)。
- 6) 日本語能力試験は、2010年から新試験が実施されている。新旧試験を比較すれば、新試験のN1は旧試験の1級、新試験のN2は旧試験の2級、新試験のN4は旧試験の3級、新試験のN5は旧試験の4級とほぼ同じレベルで、旧試験の2級と3級のレベル差が大きかったため、その間のレベルとしてN3が新設された(国際交流基金・日本国際教育支援協会)。本稿では海外で認知度が高く、外国人の日本語力の基準とされている旧試験のレベル(1級・2級・3級・4級)を用いて議論を進める。
- 7) ゼロ初級とは、かつて勉強した経験があるものの忘れてしまったという学習者は含まないまったくの初心者のレベルであり、日本語学習なら「あいうえお」の発声と文字の認識から始まる段階である。
- 8) 冒頭に記したように、海外では学習者の日本語が上達するのに時間がかかるため海外の大学では日本国内と基準が異なることが多いが、日本では上級は日本語能力試験1級合格、中級は日本語能力試験2級合格、初中級は日本語能力試験3級合格、初級は日本語能力試験4級合格、とされている。日本語力を問われる日系企業に就職する場合、日本語能力試験1級合格が求められる。
- 9) 日本の教育制度で言えば、工業高校・商業高校・農業高校などのような職業高校に当たる。日本語を専攻で勉強する高校は台湾全土にあり、学生の出身地も大学所在地の高雄周辺とは限らない(尾崎先生の談話)。
- 10) 休学者が復学する際の日本語力は規定されていないが、学生募集要項には日本語能力試験3級合格以上が望ましいと記載されている(施先生の談話)。

- 11) スピーチレベルは丁寧さに関する文体のレベルのことを、スピーチレベルシフトは場面・相手など様々な条件によって、デス・マス体からダ体へ、あるいはダ体からデス・マス体へ丁寧さの度合いを変化させることを言う。
- 12) 筆者は本学2年次の留学生の授業でレポート作成を指導している。

参考文献

- 相川真佐夫 (2010)「台湾における3つの言語政策」山本忠行・河原俊昭 (編著)『世界の言語政策第3集：多言語社会を生きる』くろしお出版 55-76.
- 伊藤恵美子 (2008)「タイ商工会議所大学の日本語プログラム：短期留学生の来日前学習について」『下関市立大学論集』52 (1/2) : 93-101.
- 国立高雄餐旅大学 (2010)「国立高雄餐旅大学応用日本語学科四年生カリキュラム表 (2010年)」
- 中川仁 (2009)『戦後台湾の言語政策：北京語同化政策と多言語主義』東方書店
- 藤井 (宮西) 久美子 (2003)『近現代中国における言語政策：文字改革を中心に』三元社
- 黄招憲「餐旅類における日本語教育：各大学と餐旅類の専門日本語科目の状況を中心に」
- 黄招憲・紙矢健治「国立高雄餐旅学院における日本語教育 (1996-2005年) の変遷」

- <<http://web.nkuht.edu.tw/GHE/new-web/>>
2011年2月10日参照
- 黄女玲「ホスピタリティ産業の学生のための初級日本語テキストへの考察：日本語待遇表現の理解と使用を中心に」
- <<http://web.nkuht.edu.tw/GHE/new-web/>>
2011年2月16日参照
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会「日本語能力試験」
- <<http://www.jlpt.jp/about/comparison.html>>
2011年2月16日参照
- 国立高雄餐旅大学「教学単位」
- <<http://web.nkuht.edu.tw/onweb.jsp?webno=333333337>>2011年2月16日参照
- 国立高雄餐旅大学「教師同仁系統」
- <http://webap.nkuht.edu.tw/twacher/class/query_teacher_timefl.asp>2011年1月13日参照
- 国立高雄餐旅大学「実習単位」
- <<http://web.nkuht.edu.tw/onweb.jsp?webno.=3333330654>>2011年2月16日参照
- 国立高雄餐旅大学「本校発展簡史」
- <<http://web.nkuht.edu.tw/onweb.jsp?webno=333333337>>2011年2月16日参照
- 日本国際教育支援協会「日本語能力試験実施案内 (国内)」
- <http://www.jees.or.jp/jlpt/jlpt_guide_2011_1st.html>2011年2月16日参照